

これからの学校水泳—水任流師範からの学びを活かして—

三木 寿人（高松市立国分寺南部小学校）

（１） はじめに

- ・学校水泳の「今」…これからの学校水泳はどうあるべきか？
- ・「水任流」とは？…解決のヒントが得られるのではないかな？

（２） 研究の内容（研究仮説）

<仮説①>

「水任流游泳録（水府流水任游泳録）」と「小学校学習指導要領解説体育編」との関連性について検討することで、学校水泳で大切にすべき視点が得られるだろう。

<仮説②>

水任流師範への質問紙調査から、学校水泳で大切にすべき心得が明らかになるだろう。

（３） 研究の実際

<仮説①>について

- ・育成すべき資質・能力の三つの柱との関連
知識・技能⇔主に低・中学年での関連性が高い＝水中で様々な動きを経験すること
思考力・判断力・表現力等⇔「わかって、できる」ためのポイント／主体的・対話的で深い学び
学びに向かう力、人間性等⇔高松藩初代藩主の言葉＝自他の命を守ること

<仮説②>について

- ・1643年から現在まで受け継がれている意味
- ・水任流の立場からこれからの学校水泳のあるべき姿

（４） 成果と課題

○指導の順序（浮くことの習得）や水中で様々な動きを体験すること（平体・立体・横体等）の重要性を確認

○水任流が継承されている意味と学校水泳の価値を確認

▲小学校における授業実践（主に中学年）での検証

▲水任流や学校水泳の価値（＝水を媒介とした運動文化の伝承）を啓発・継承

（５） 本研究のまとめ

- ・学校水泳を取り巻く諸問題から目を背けず、様々な視点から解決策を検討すること
- ・温故知新の視点で、小学校として学ばせるべき内容を精選し、水との関わりを楽しむ授業づくりを推進すること
- ・水任流の立場から伝えたいこと

（６） 引用参考文献

- ・公益財団法人 日本水泳連盟「日本泳法 流派一覧」（2014）
- ・公益財団法人 日本水泳連盟「日本泳法解説」（2014）
- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説体育編」（2017）
- ・MBS NEWS「水泳授業の「民間委託」インストラクターが指導 教員の負担軽減というメリットも」（2023）
- ・水任流保存会「第72回日本泳法研究会資料 水任流」（2025）
- ・高知新聞「令和7年4月1日（23）」（2025）
- ・文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm